

Ⅳ 思春期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅳ-2 子どもの どう考える？



対象：小学校高学年・中学生の子どもをもつ保護者
時間：65～80分程度

ねらい	子どもの「ケータイ」社会で何が起きているのかを知る。 「ケータイ」を子どもに持たせるときは、親が何をすべきかを考える。		
実施のポイント (評価など)	○「携帯電話」と「ケータイ」の言葉のイメージを話し合うことで、便利な点とリスクについて考えることができる。また、資料を通じて子どもの「ケータイ」事情を知り、その対応策を話し合うことができる。 ○子どもが「ケータイ」を所持する場合に親としてすべきことを考えることができる。		
事前準備	○資料(資料1：新聞記事 資料2：フィルタリングサービス) ○筆記用具 ○ファシリテーター用資料を準備する。(資料3：相談機関一覧) ○数人のグループで話し合えるよう、グループづくり、会場設定をしておく。		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入 10分	ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク	・参加者の緊張をほぐし、和やかな雰囲気をつくる。 ・自己紹介により、互いに親近感がもてるようにする。	
展開 10分	ワーク1 ・グループで話し合う。	◎「携帯電話」と「ケータイ」の言葉のイメージを話し合うことで、便利な点とリスクについて考えることをねらいとする。 ・様々な視点から考え、意見を出し合うようにする。 (例) 電話などの連絡手段、安心安全等 ゲームなどの遊び道具、インターネット利用等	
15～20分	ワーク2 ・グループで話し合う。 ・新聞記事を読む。 (進行者が読むかまたは黙読) ・記事から利用実態をピックアップする。 ・危険な現状を知る。	◎子どもの「ケータイ」利用をめぐる危険な現状・実態について知り、対応の必要性に気付くことをねらいとする。 ・実際に起こっている犯罪・被害はどのようなものか話し合う。さらに、新聞記事をもとに話し合う。 (例) * 出会い系サイト以外のサイトで子どもが犯罪に巻き込まれるケースが増加 * ゲームサイトやブログ、ブログ、ソーシャル・ネットワーキング・サービスでの危険性 * 携帯依存、ネットいじめ、高額請求、書き込みで加害者に、迷惑メール等 * ケータイによって世界が広がれば、リスクも増加	資料1
15～20分	ワーク3 ・ケータイの必要性について話し合う。 ・ケータイを持たせる場合のルールを考え、話し合う。 ・資料からルールに沿った機能設定等を知る。	◎トラブルや依存を防ぐために、親としてすべきことを考えることをねらいとする。 ・家庭でできること、しなければならないことについて話し合う。 (例) * 「ケータイ」の必要性を子どもと話し合いながら考える。 (家庭環境、子どもの発達段階等) * 持たせるなら、家庭でのルールを子どもと話し合いながらつくる。 (「ケータイ」の使用時間・場所、料金の上限、書き込み、インターネットやメールの利用、学校のルール・公共の場でのマナーやルール等を考える。) * 発達段階に応じたフィルタリング・アクセス制限を行う。 →ルールに沿って「ケータイ」機能設定を行う。 技術的な知識、手段(フィルタリング・アクセス制限等)等を資料から知る。 ※2009年4月1日から施行された「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」で、18歳未満の子どもに携帯電話を使用させる場合、フィルタリングサービスの利用が義務付けられている。	資料2
15～20分	ワーク4 ・我が家のルールづくりをする。	◎家庭で実際にできることを話し合うことをねらいとする。 ・話し合ったことをもとに、我が家での場合を考えて三つ程度ルールづくりを行う。 ・グループで出したルールを発表し、参加者で共有する。	
まとめ 10分	ふりかえり ・感想を記入する。 ・発表し合い、共有する。	・親子で話し合う、一緒にルールづくりをする等で大切な家庭教育における基本的な事項についてみんなで確認する。 * 子どもとの日々のコミュニケーションが大切であること * 挨拶をする、声をかける、気にかける、見守る等 * 子どもにコミュニケーション能力、マナーを身に付けさせることの重要性を認識すること * 被害者や加害者をつくらないための家庭教育の必要性 ・時間に余裕があればトラブルに巻き込まれた場合の対応・相談窓口を紹介する。	資料3